

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	16-102	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Identifying Predictors and Prevalence of Alcohol Consumption among University Students: Nine Years of Follow-Up. 大学生における飲酒状況と問題飲酒関連要因：コホート研究		
執筆者		
Moure-Rodríguez L, Piñeiro M, Corral Varela M, Rodríguez-Holguín S, Cadaveira F, Caamaño-Isorna F.		
掲載誌		
PLoS One. 2016 Nov 3;11(11):e0165514. doi: 10.1371/journal.pone.0165514. eCollection 2016.		
キーワード		PMID
大学生、問題飲酒、AUDIT		27812131
要 旨		
目的：		
大学生を対象に、学生時代から 20 歳代後半までの飲酒状況と、問題飲酒の関連要因を検討する。		
方法：		
2005 年 11 月に、スペイン国内の 33 の大学で 1 年生(18 歳) 1,382 人に飲酒に関する初回調査を実施した。その後 20 歳時、22 歳時、24 歳時、27 歳時に追跡調査を行なった。調査内容は AUDIT(WHO がスポンサーとなり開発されたテスト)や、社会経済的要因等であった。危険飲酒(AUDIT 点数：男性 6 点・女性 5 点以上)、多量飲酒 (3 合以上飲酒が週 1 回以上)を問題飲酒と定義し、繰り返し測定を用いたロジスティック回帰分析により要因分析を行なった。		
結果：		
危険飲酒が最も多いのは男女とも 20 歳時で、男性 62.6%、女性 52.2%に認められたが、27 歳時には男性 31.1%、女性 20.9%に減少した。多量飲酒が最も多いのは男性で 22 歳時(43.2%)、女性で 20 歳時(17.9%)だった。要因分析の結果、飲酒開始年齢が 15 歳未満では、17 歳以上の者に比べて、危険飲酒・問題飲酒が男性で 8.3 倍・8.2 倍、女性で 10.6 倍・6.9 倍とオッズ比が高かった。男女ともに飲酒への期待感が問題飲酒の重要なリスク要因であった。女性では 1 人暮らしのリスクが高く、また、男女ともに母親の高学歴もリスク要因となっていた。		
結論：		
スペインの大学生のコホート研究において、男性は女性に比べて問題飲酒が多く、そのピーク年齢が遅かった。飲酒開始年齢、飲酒への期待感、女性の 1 人暮らし、母親の高学歴等のリスク要因を踏まえた対策が重要である。		